

必要とされる病院の概要

1. 診療機能

(1) 救急

基本的な考え方

- ① 2次救急のある程度までの対応を行う。
- ② 八鹿病院との連携と分担を図る。

(2) 入院

基本的な考え方

- ① 現在の両医療センターの診療科を引き継ぐ(内科、外科、整形外科、療養病床)
- ② 朝来市民の入院のニーズに応えるベッド数を確保する。

(3) 外来

- ① 現在の両医療センターの診療科を引き継ぐ
- ② かかりつけ患者への対応も行う。

2. 病床数

(1) 現状

梁瀬医療センター	和田山医療センター	合 計
50床	139床(うち療養36床)	189床(うち療養36床)

(2) 必要とされる病床数

案	病床数	備 考
案1	189床	現状の病床数と同等とする。
案2	150床 規模	両MCの直近(H21)の患者数と近隣病院からの患者数見込みの合計 ① 直近(H21)の患者数 → 122人 ② 朝来市民で八鹿病院に入院した内科・外科・整形外科の患者 (1日当たり46人)の6割 → 28人 ③ 朝来市民で神崎総合病院に入院した患者数(一日当たり22人) の2割 → 4人 合計 ①+②+③=154人 → 150床規模
案3	200床 規模	両MCの過去10年間の最多患者数(H16)と近隣病院からの患者数 見込みの合計 ① 最多の患者数 → 162人 ② 朝来市民で八鹿病院に入院した内科・外科・整形外科の患者 (1日当たり46人)の6割 → 28人 ③ 朝来市民で神崎総合病院に入院した患者数(一日当たり22人) の2割 → 4人 合計 ①+②+③=194人 → 200床規模

2. 延床面積

(1) 現状

梁瀬医療センター	和田山医療センター	合 計
2, 927㎡	8, 863㎡	11, 790㎡

(2) 病床数(案1～3)毎の病院の延床面積(1床当たり60㎡として算出)

案	病床数	延床面積
案1	189床	11, 340㎡ (189床×60㎡/床)
案2	150床	9, 000㎡ (150床×60㎡/床)
案3	200床	12, 000㎡ (200床×60㎡/床)

3. 敷地面積

(1) 現状

梁瀬医療センター	和田山医療センター	合 計
6, 214㎡	全敷地面積 37, 137㎡のうち 特別支援学校、山林・法面等を 除く実利用面積11, 000㎡程度	17, 200㎡程度

(2) 病床数(案1～3)毎の病院に必要な敷地面積

案	病床数	敷地面積
案1	189床	16, 000㎡ (4階建 駐車場378台)
案2	150床	14, 000㎡ (3階建 駐車場300台)
案3	200床	17, 000㎡ (4階建 駐車場400台)

<敷地面積の算出資料>

①1床当たりの建築面積 60㎡

②建ぺい率 60%

③駐車台数 病床数の2倍程度

④自動車一台当たりの必要面積 30㎡

計算式

$$\text{病床数} \times 60\text{㎡} \div \text{階数} \div 60\% + \text{病床数} \times 2 \times 30\text{㎡}$$

(病院建物) (駐車場)

4. 規模別病院の概要と建設に必要な費用(概算)

案1 189床 4階建 駐車場 378台

項目	金額	備 考
建築費	34億円	11,340㎡(延床面積)×300千円(㎡当たり建築単価)
医療機器	5億円	150床～200床規模の病院で10億円程度 両医療センターの機器を活用することとし、半額と試算
用地費	12億円	16,000㎡×77千円/㎡ 土地購入費・造成費
計	51億円	

案2 150床 3階建 駐車場 300台

項目	金額	備 考
建築費	27億円	9,000㎡(延床面積)×300千円(㎡当たり建築単価)
医療機器	5億円	150床～200床規模の病院で10億円程度 両医療センターの機器を活用することとし、半額と試算
用地費	11億円	14,000㎡×77千円/㎡ 土地購入費・造成費
計	43億円	

案3 200床 4階建 駐車場 400台

項目	金額	備 考
建築費	36億円	12,000㎡(延床面積)×300千円(㎡当たり建築単価)
医療機器	5億円	150床～200床規模の病院で10億円程度 両医療センターの機器を活用することとし、半額と試算
用地費	13億円	17,000㎡×77千円/㎡ 土地購入費・造成費
計	54億円	

5. 立地場所の要件

(1) 必要な敷地面積の確保

①病院規模に応じた敷地面積(14,000㎡～17,000㎡程度)が確保できること。

(2) 交通の利便性

- ①鉄道、バス等の公共交通機関の利用が容易なこと。
- ②救急車の進入が容易な幹線道路に隣接していること。
- ③朝来市の4地域(和田山・山東・朝来・生野)からのアクセスが良いこと。

(3) 災害への対応

- ①冠水・地滑り・土石流等の自然災害の危険が少ない場所であること。
- ②病院へのアクセス道路が複数確保されていること。(病院が孤立しないこと。)

< 参考 > 立地場所の要件に対する両医療センターの状況

○ 梁瀬医療センター

(1) 必要な敷地面積の確保

- ①敷地面積の確保 → 6,214㎡
※周辺農地が取得出来た場合12,000㎡程度

(2) 交通の利便性

- ①鉄道、バス等の公共交通機関の利用 → 山陰本線梁瀬駅・全但バス梁瀬病院前
- ②救急車の進入が容易な幹線道路に隣接 → 国道9号線・国道427号線
- ③朝来市の4地域(和田山・山東・朝来・生野)からのアクセス → 生野×、朝来△

(3) 災害への対応

- ①冠水・地滑り・土石流等の自然災害の危険性 → 既知の危険性なし
- ②病院へのアクセス道路の複数確保 → 国道9号線・国道427号線

○ 和田山医療センター

(1) 必要な敷地面積の確保

- ①敷地面積の確保 → 実利用面積11,000㎡
※全体の敷地面積は大きいが傾斜地のため、整地に多額の費用が掛かる。

(2) 交通の利便性

- ①鉄道、バス等の公共交通機関の利用 → 播但線竹田駅・全但バス和田山病院
- ②救急車の進入が容易な幹線道路に隣接 → 国道312号線・県道277号線
- ③朝来市の4地域(和田山・山東・朝来・生野)からのアクセス → 4地域とも○

(3) 災害への対応

- ①冠水・地滑り・土石流等の自然災害の危険性 → 土石流の危険
(兵庫県CGハザードマップ)
- ②病院へのアクセス道路の複数確保 → 国道312号線・県道277号線